資料１

下野市男女共同参画プラン策定に係る
市民アンケート調査結果
(概要版)

平成 19 年 3 月
下　野　市

【目次】

＜概要＞ ‥2

⑴ 調査内容

⑵ 回収状況と属性

＜下野市男女共同参画に関する課題について＞ ‥3

⑴ 男女共同参画への意識改革 ‥‥3

⑵ 人権の尊重と意識改革 ‥‥5

⑶ 家庭での男女共同参画 ‥‥7

⑷ 仕事での男女共同参画 ‥‥9

⑸ 男女とも健康に安心して暮らせる社会 ‥‥10

＜概要＞

(1) 調査内容

・調査対象

18 歳以上の下野市民 2,000 人
（男性 1,000 人、女性 1,000 人）

・調査方法

郵送による配布・回収

・調査期間

平成 19 年 1 月 19 日から
平成 19 年 2 月 5 日

・調査項目

A　就労について

問１　仕事への従事
問２　女性が仕事を持つことに対する考え方
問３　女性の能力発揮のための環境づくり

B　生活全般について

問４　家庭における家事の役割分担
問５　子どもの育て方についての考え
問６　子育てにおける父親と母親の違い
問７　育児休業・介護休業の取得
問８　男性、女性ともに家事等に参加するための環境づくり

C　男女が安心で健康に暮らせる環境

問９　ドメスティック・バイオレンス（DV）の認識
問１０　ドメスティック・バイオレンスの経験等
問１１　ドメスティック・バイオレンス防止のための取り組み

D　男女共同参画に対する意識

問１２　「夫は働き、妻は家庭」という考え方に対する考え
問１３　男女共同参画に関わる言葉等の認知度

E　市（行政）に要望する施策

問１４　市に相談したいこと
問１５　男女共同参画社会形成のため市（行政）のすべきこと

F　属性

G　自由回答

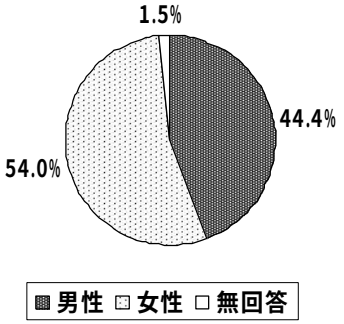
(2) 回収状況と属性

・回収状況

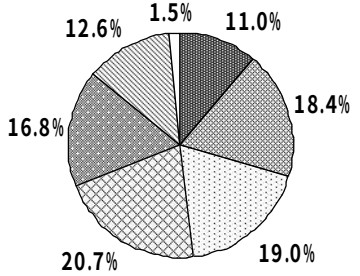
配布数	2,000
回収票数	779
回収率	39.0%

・回答者の属性

性別(n=779)



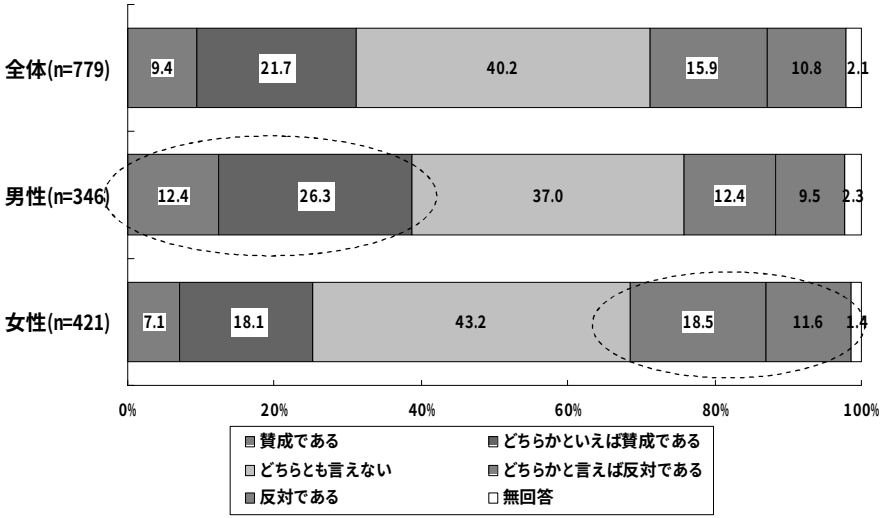
年齢(n=779)



＜下野市男女共同参画に関する課題について＞

（1）男女共同参画への意識改革

・「夫は働き、妻は家庭」に対し、賛成が男性に多い。

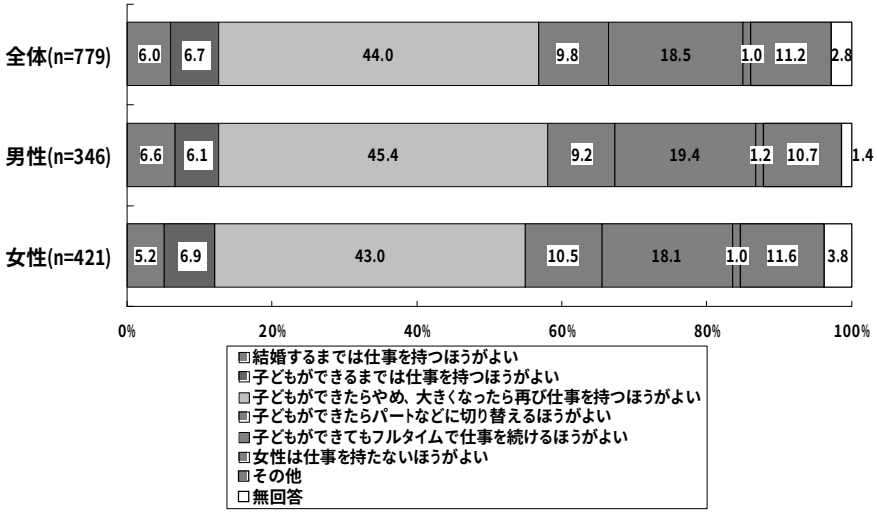


「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方をどう思うか質問したところ、全体では、賛成の割合が31.1%に対し、反対の割合が26.7%であり、賛成の意見が上回っている。

男女別にみると、男性では「賛成」が38.7%、「反対」が21.9%で、「賛成」が16.8ポイント上回っている。女性では「賛成」が25.2%、「反対」が30.1%で、「反対」が4.9ポイント上回っている。

男性と女性では考え方が違っており、女性のほうが男女共同参画に対する意識が高いといえる。

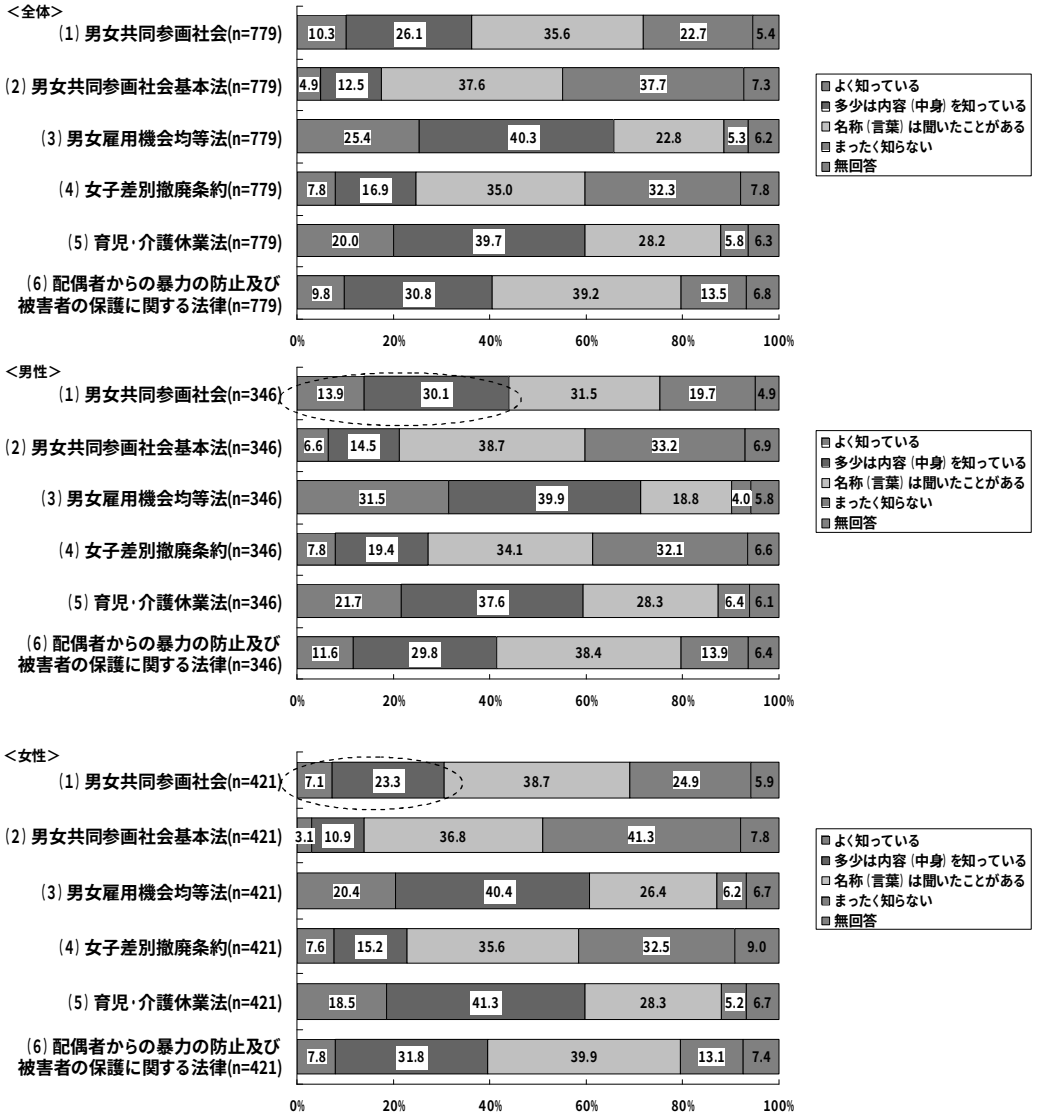
・女性が仕事を持つことに対して、男女間に意識の差はほとんどない。



女性が仕事を持つことについてどう思うかという質問に対し、子どもの成長過程において、子どもが小さい間は子育てを優先すべきとの回答が半数近くを占めるなか、子育てと仕事の両立を図るべきとの回答も約2割を占めている。

男女の回答傾向はほとんど変わらないことから、男女間に意識の差はあまりないと考えられる。

・男女共同参画に関連する用語の認知度は男性のほうが高い。



男女共同参画に関する言葉や内容を知っているか質問したところ、内容に対する認知度は、「男女雇用機会均等法」についての認知度が最も高く、次いで「育児・介護休業法」、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」、「男女共同参画社会」の順となっている。

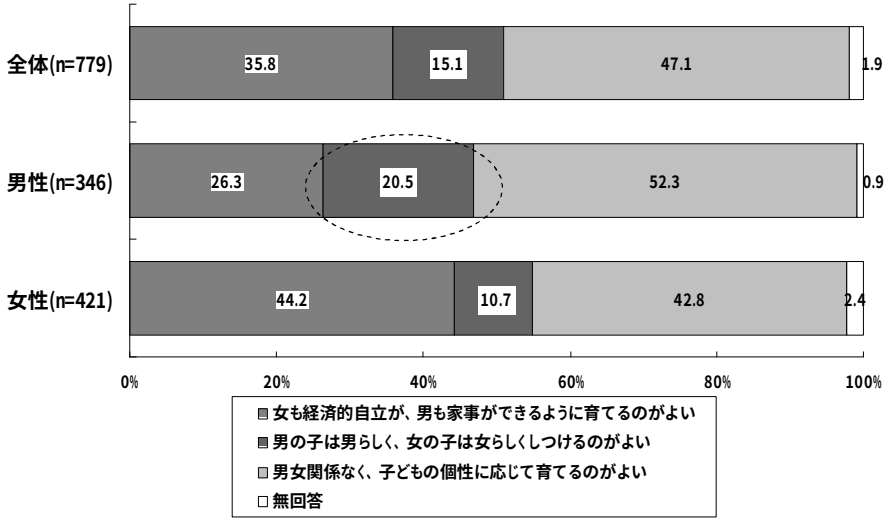
男性では、「男女雇用機会均等法」についての認知度が最も高く（71.4%）、次いで「育児・介護休業法」（59.3%）、「男女共同参画社会」（44.0%）、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」（41.4%）となっており、育児・介護休業法を除き、全体よりも認知度が高い。

女性では、「男女雇用機会均等法」についての認知度が最も高く（60.8%）、次いで「育児・介護休業法」（59.8%）、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」（39.6%）となっており、男女共同参画に関連する用語に対する認知度は男性と比して低く、「男女共同参画社会」については10ポイント以上の差がみられる。

<u>前ページのグラフ（「夫は働き、妻は家庭」に対する考え方）との比較により、男性は男女共同参画の認知度が女性に比して高いものの、男女共同参画に対する意識は女性に比して低いといえる。</u>

(2) 人権の尊重と意識改革

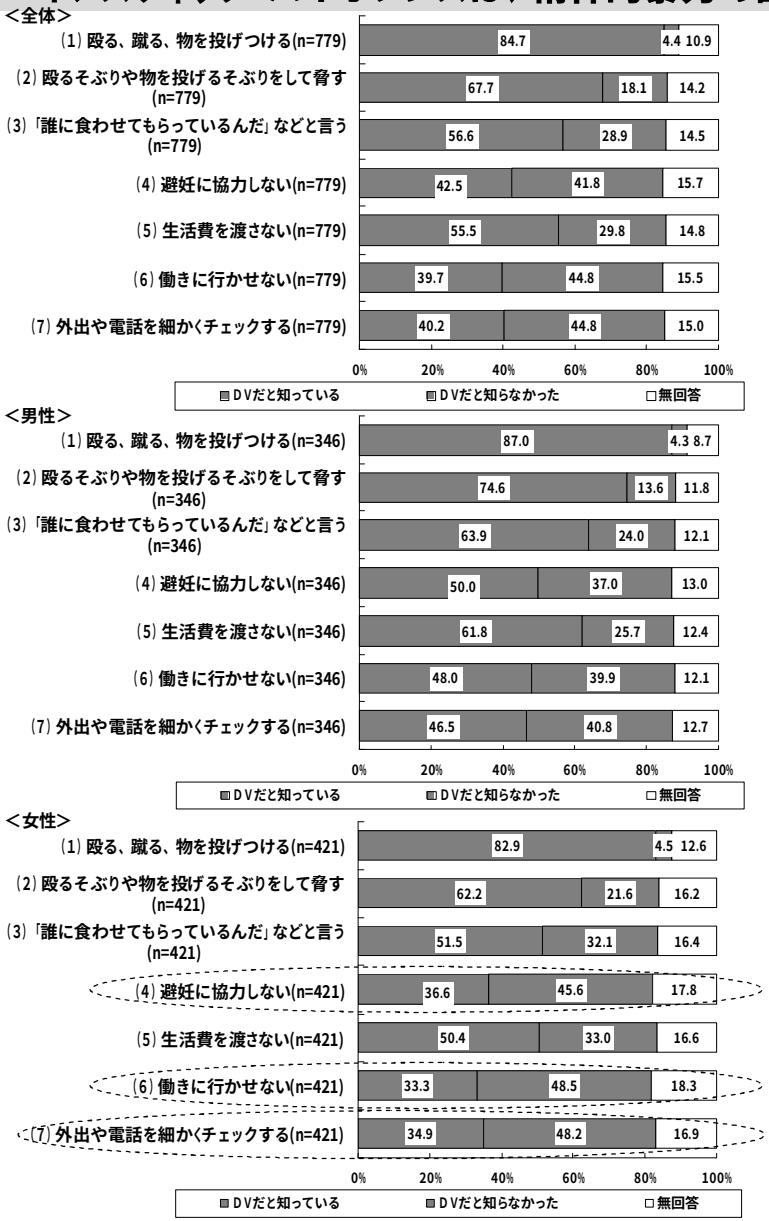
・子どもの育て方は、男性で「男らしく、女らしく」のジェンダー観が強い。



子どもの育て方の方針について質問したところ、「男女関係なく、子どもの個性に応じて育てるのがよい」との回答がもっとも多く、次いで「女の子も経済的自立が、男の子も家事ができるように育てるのがよい」、「男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」の順であり、「男らしく、女らしく」といったジェンダー観は相対的に少ない。

男女別にみると、「男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」の回答割合が男性で高いことから、女性のほうが男女共同参画の意識が高く、男女平等教育の推進に対する意識が高いといえる。

・ドメスティック・バイオレンスは、精神的暴力の認識が低く、認知度は男性のほうが高い。



ドメスティック・バイオレンスにあたる行為についてどの程度知っているか質問したところ、身体的暴力については過半数が認識しているが、避妊の協力や、精神的暴力については、過半数に達していない。

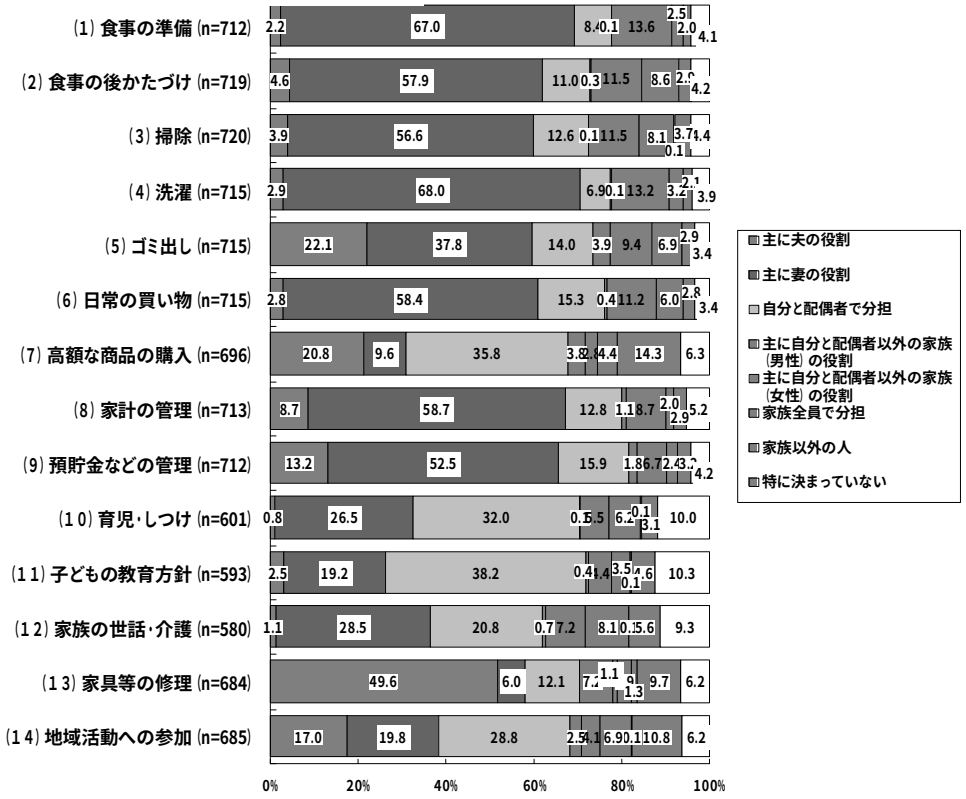
男女を比較すると、すべての項目で男性が女性より認識率が高い。また、男性はすべての項目で「知っている」が「知らなかった」を上回っている。一方で女性は、避妊への協力、働きに行かせない、外出や電話を細かくチェックする、の項目で「知らなかった」が「知っている」を上回っている。

男性のほうが、ドメスティック・バイオレンスについての認識が高い。

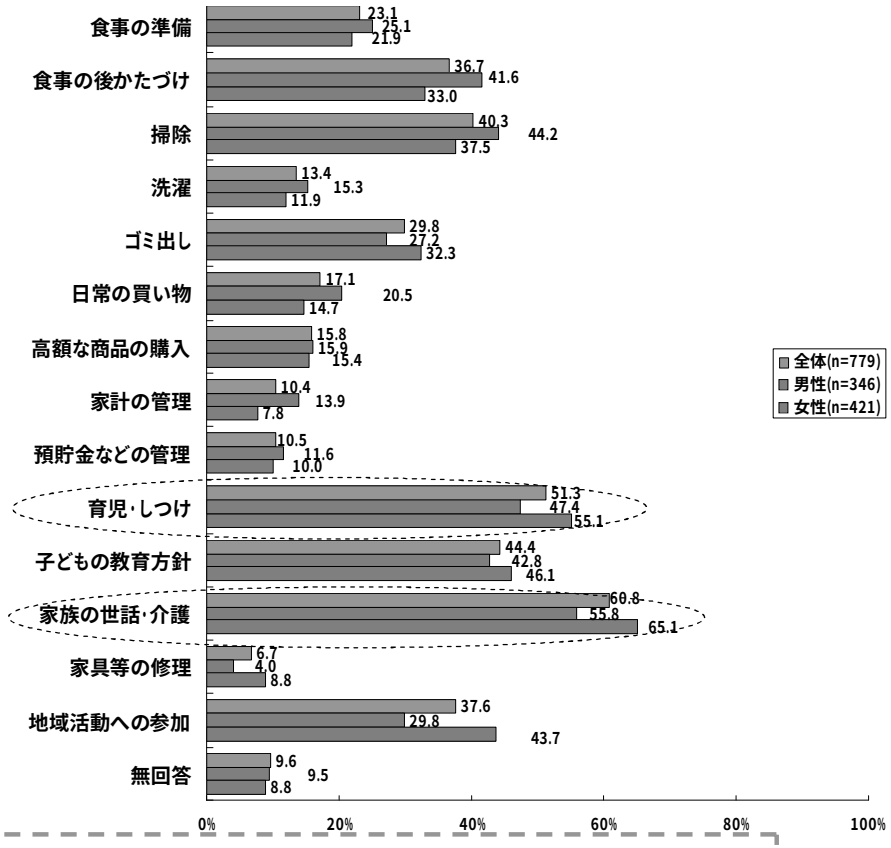
(3) 家庭での男女共同参画

・家事の分担は、分担が望ましいと考える「家族の世話・介護」、「育児・しつけ」で分担が進んでいる。

○家事の役割分担



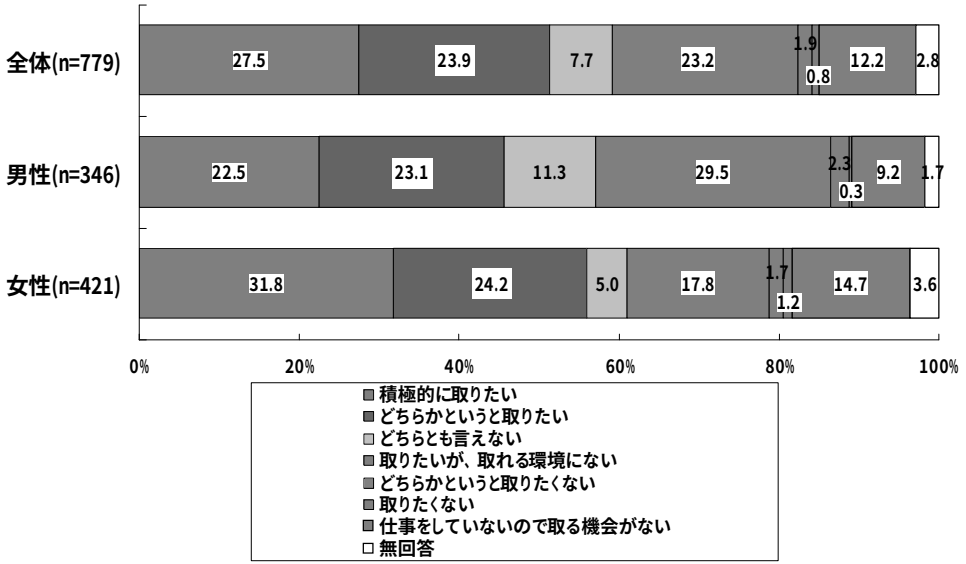
○役割分担が望ましい家事



家事の中で「夫婦で分担」あるいは「家族で分担」が望ましいと思う項目を問う質問（右図）に対し、「家族の世話・介護」が最も高く、次いで「育児・しつけ」、「子どもの教育方針」の順となっており、保育や介護に関しては家族で分担するのが望ましいと考えている。また、回答者の家庭の中で、家事が誰の役割かを問う質問の回答（左図）から、実際に夫婦または家族で分担している割合が比較的高い項目が上位に挙がっている。

女性の回答者が男性の回答者より、分担が望ましいと回答する割合が高い項目は、「育児・しつけ」、「子どもの教育方針」、「家族の世話・介護」、「家具等の修理」、「地域活動への参加」などであり、実際に夫婦または家族で分担している割合が比較的高い項目が挙がっている。

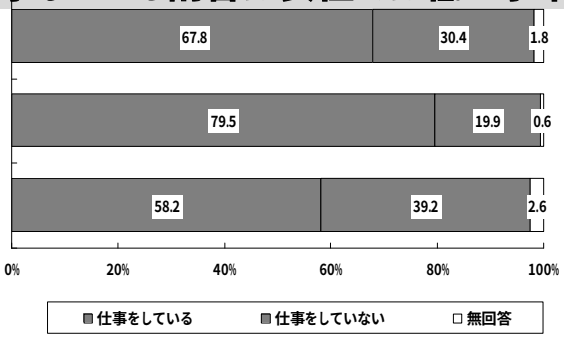
・育児・介護休業の取得意向は男性、女性とも強いが、男性は取りたくても取れる環境にないと感じている。



育児や介護を行うために育児休業や介護休業を取ることについての考えを問う質問に対し、男性も女性も大半の回答者が「取りたい」と回答しているが、**男性には「取りたいが取れる環境にない」との認識が女性と比較して強い。**

(4) 仕事での男女共同参画

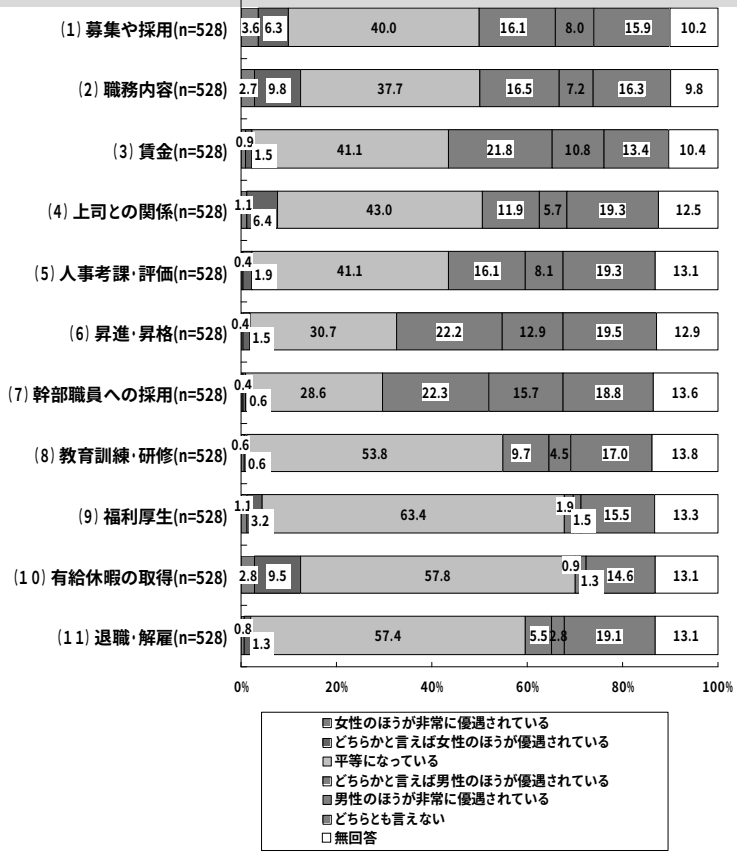
・仕事へ従事している割合は女性では低い水準にとどまる。



現在、何らかの仕事をしているかとの質問に対し、回答者の約7割が「仕事をしている」と回答している。

男女別にみると、男性は8割近い回答者が仕事をしている一方で、女性は6割弱に留まっており、男性と女性の間に差がある。

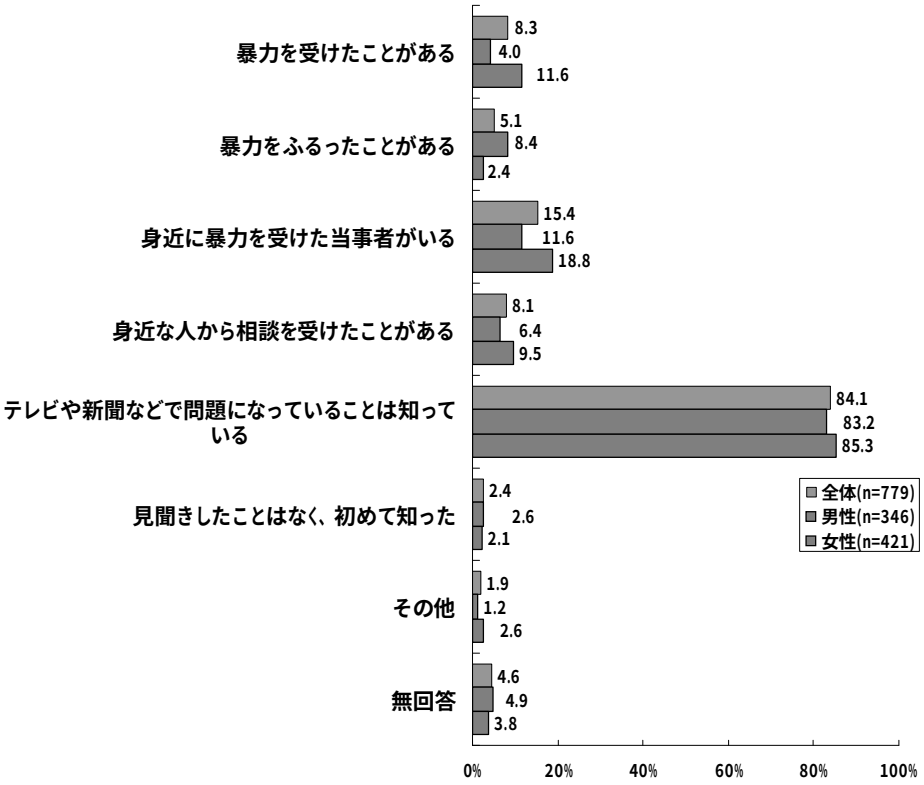
・職場では、「幹部職員への採用」「昇進・昇格」で男女格差が根強く残っている。



現在仕事をしている回答者に対する、職場での男女の扱いについての質問に対し、**男性・女性どちらかが優遇されている傾向が強いのは「幹部職員への採用」、「昇進・昇格」で、男性優遇の傾向がみられる。**

⑸ 男女とも健康に安心して暮らせる社会

・ドメスティック・バイオレンスの被害に遭った回答者が約１割。



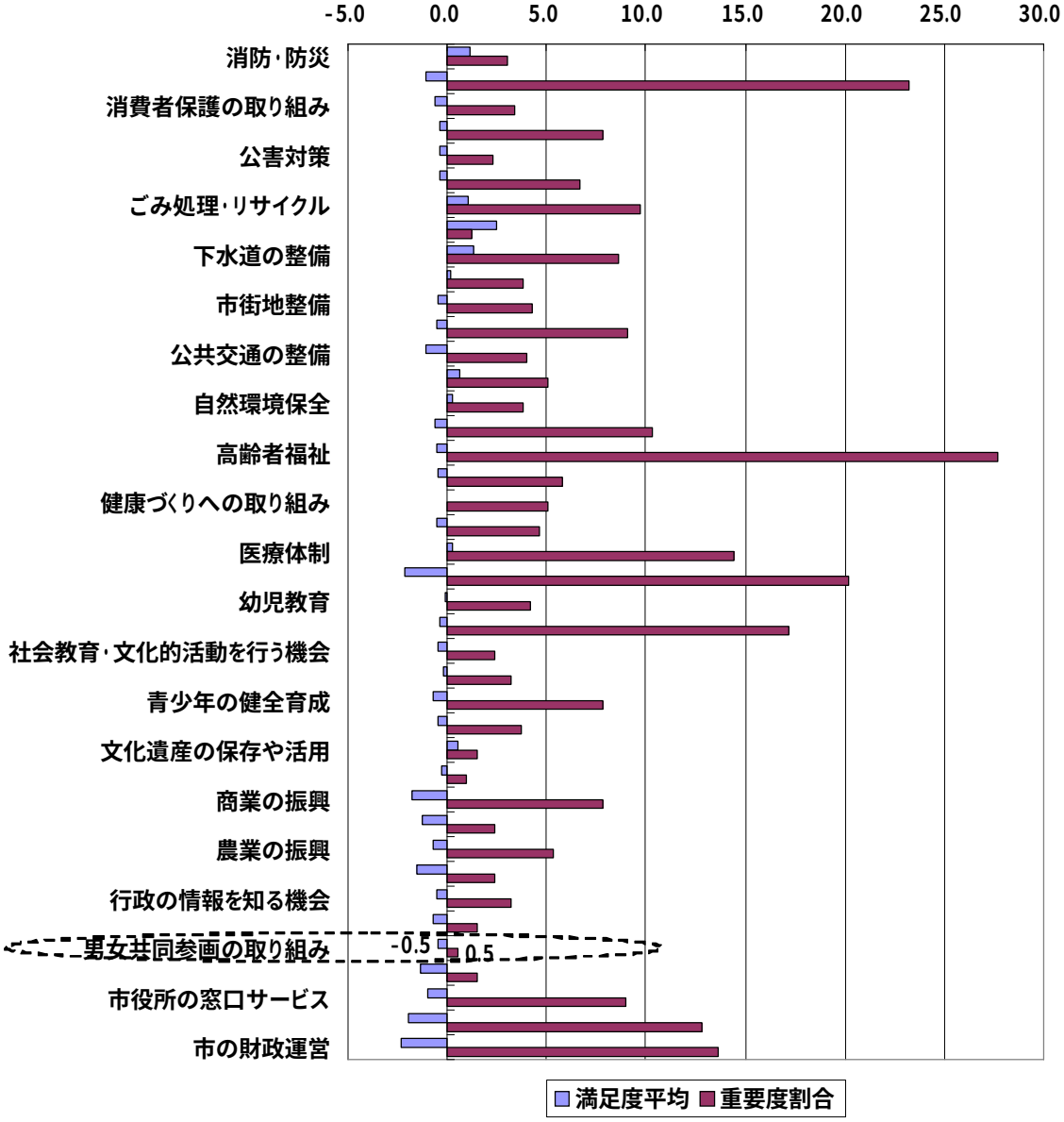
ドメスティック・バイオレンスを経験したり、身近で見聞きしたりあるかという質問に対し、受けたことがあるとの回答が、女性で１割を超えている。また、身近に暴力を受けた当事者がいるとの回答も、全体で15%を超えている。

潜在的な被害者も含めると15%以上の市民がドメスティック・バイオレンスに関係があったと推察される。

参考資料

男女共同参画社会の推進に対する市民意識

・男女共同参画の取り組みは市民の間で重要視されていない



平成18年に実施した「下野市総合計画策定に係る市民アンケート」調査では、これまでの市の取り組みに対する満足度を５段階評価で、今後力を入れてほしい行政施策（＝重要度）を、全41項目から３つ以内で選択してもらった。
調査結果をみると、「男女共同参画の取り組み」に対する満足度平均は低い。一方で、重要度と考える市民の割合は低く、全項目の中で最下位である。
したがって、**満足度、関心度とも低く、早急に改善してほしいと考える市民は少数にとどまっているといえる。**

満足度平均は、「満足」「やや満足」「普通」「やや不満」「不満」のそれぞれに10点、5点、0点、－5点、－10点を与え、加重平均している。

重要度割合は回答者全体に対して、その項目を選択した回答者の割合を示している。